

2022（令和4）年度事業報告

A. 調査研究活動

ア. 修学旅行に関する実施状況調査

●修学旅行の現況と各方面の意向・動向を的確に把握し、各種資料の提供に努める

- 1 三地区中学校の修学旅行実施状況調査
- 2 2021（令和3）年度「全国公立高等学校海外修学旅行・海外研修実施状況調査報告」及び「公立高等学校・中学校修学旅行方面別実施状況」、2022（令和4）年度「全国都道府県政令指定都市修学旅行実施基準概要」調査

イ. 修学旅行に関する研究大会の開催

●全国大会をはじめ各研究大会を充実させこれからの修学旅行の在り方を探求した

- 1 「第39回全国修学旅行研究大会」を開催
 - (1) 開催期日・会場
2022（令和4）年7月22日（金）13:30～17:00 学士会館（東京）
 - (2) 大会主題
学びの集大成を図る修学旅行
 - (3) 発表内容
 - a 全修協報告：「コロナ禍と修学旅行」
(公財)全国修学旅行研究協会 調査研究部長 石原 輝紀
 - b 実践事例発表：「もう一つの特色ある修学旅行
～夜間中学校（学級）の修学旅行」
東京都世田谷区立三宿中学校 前校長 牧野 英一 氏
 - c 講演：「これからの修学旅行を考える」
東洋大学国際観光学部 教授 越智 良典 氏
 - (4) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の見地から会場参加とオンラインを併用したハイブリット方式とした
 - (5) 参加者
教職員、行政・地方自治体、修学旅行誘致団体関係者、報道関係者及び旅行会社の教育旅行担当者など、全158名（会場参加97名 オンライン視聴61名）が参加した
- 2 各修学旅行委員会の研究発表会・研究大会・研究セミナーを共催
児童・生徒の育ちと学びに資する修学旅行の役割をさらに探求すべく、各修学旅行委員会が主催する研究発表会・研究大会・研究セミナーを共催し、開催内容のより一層の充実を図った
 - (1) 開催期日・会場
 - a 関修委：2022（令和4）年11月25日（金）千葉県千葉市
※千葉県内の教職員及び一部の関修委委員は会場参加、他県の

教職員はオンライン視聴により参加した

- b 東海修委：「第 39 回全国修学旅行研究大会」のオンライン視聴によりその代替行事に位置付けた
- c 近修委：「第 39 回全国修学旅行研究大会」のオンライン視聴によりその代替行事に位置付けた

(2) 開催目的

- a 「学びの集大成を図る修学旅行」の役割を探求し研究大会を更に充実させること
- b 各地区にて開催方法を工夫し、研究発表及び事例発表等を軸として修学旅行の内容充実、向上を図ること

3 「海外教育旅行セミナー及び現地研修会」等の検討、開催及び実施

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、海外への門戸が閉ざされたため、セミナー及び現地研修会の開催を全面的に断念した

4 修学旅行研究会の活動支援

学校の教育活動及び地域振興支援のため、修学旅行に関わる条件整備を更に進める方策を検討するため、「修学旅行研究会」の活動支援を継続した

(1) 活動目的

- a 北海道・九州・沖縄等の東京事務所、各観光誘致機関、航空会社、旅行事業者及び有識者等と共に、学校の教育活動及び地域振興に資するため、修学旅行に関わる条件整備を図ること
- b 公立中学校の修学旅行での航空機利用促進のため、旅行費用の軽減に向けた研究を行うこと
- c 新型コロナウイルス感染症が教育旅行に及ぼす影響に関する情報共有

(2) 参加者

本研究会の主旨に賛同する者（旅行研究団体、マスコミ、行政・自治体の東京事務所、運輸機関、旅行会社及び教育関係者等）

(3) 開催時期

本年度については、5/12、8/26、11/4、2/10 の 4 回のほか、幹事会を 4 回開催した

(4) 要望活動

本研究会での討議結果を踏まえ、航空 2 社（日本航空・全日空）に対して、学校研修割引運賃（SE）の改定及び受入体制の改善等を申し入れた

(5) 事例発表会

コロナ禍で実施された航空機を利用した修学旅行（北海道・九州・沖縄）の事例発表会を開催した

a 開催期日：2022（令和 4）年 11 月 4 日（金）14：00～17：00

b 開催場所：横浜市立横浜吉田中学校 地域交流室

c 参加人数：32 名

d 発表内容：

「北海道修学旅行」横浜市立上郷中学校 校長 小佐野 和人 先生

「九州修学旅行」横浜市立義務教育学校西金沢学園中等部 校長 梅澤 薫 先生

「沖縄修学旅行」横浜市立根岸中学校 校長 山岸 和美 先生

- (6) 航空機整備工場見学会・航空機利用セミナーの開催
航空機利用の安全性を調査・研究するために中学校教職員を対象として開催した
- a 開催期日：2022（令和4）年12月26日（月） 14:00～16:30
 - b 開催場所：「ANA 機体メンテナンスセンター」「JAL SKY MUSEUM」
 - c 参加人数：58名（教職員37名、研究会メンバー21名）

ウ. 修学旅行情報の収集・発信・保存

1 修学旅行先支援

諸団体との協働により、修学旅行受入れ体制の充実及び修学旅行先の開発を図り、新たな学びの開発に努めることを目的とした

- (1) 修学旅行誘致活動の一環であるセミナー、説明会及び研修会等に対する支援、協力を積極的に行った
- a 東北観光推進機構主催「東北教育旅行セミナー・商談会（札幌・東京・大阪・名古屋・福岡・オンライン）」 後援・来賓参加
 - b 北海道観光振興機構主催「北海道修学旅行説明会・相談会（仙台・大宮・東京・大阪）」 後援・来賓参加
 - c 九州観光機構主催「2022年度九州7県合同修学旅行説明会・相談会（名古屋・大阪・東京）」 後援・来賓参加
 - d 沖縄観光コンベンションビューロー主催「2022年度沖縄修学旅行SDGs EXPO・修学旅行相談会（東京・静岡・岡山）」 後援・来賓参加
 - e 日本旅行業協会主催「2022年海外修学旅行実施に向けた方面セミナー」オンライン参加

2 協会ホームページ「修学旅行ドットコム・修学旅行情報センター」の運営及び改修

- (1) 修学旅行情報センターとしての機能強化のため、更なる協会ホームページの内容充実を図った
- (2) 賛助会員との連携を密にすることに加え、掲載情報の更新頻度を高め、発信する情報の最適化に努めた
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関する情報を別枠にまとめ掲載するなど、迅速且つ丁寧な掲載に努めた
- (4) 新着情報（トピックス）の発信32件、セミナー・説明会の案内1件、協会からのお知らせ発信4件

B. 輸送集約活動

ア. 修学旅行の輸送に関する集約活動

- 各地区修学旅行委員会の運営支援を充実させ、より効果的な修学旅行の実態に寄与した

- 1 関東地区公立中学校修学旅行委員会（関修委）の活動
- 2 東海三県中学校修学旅行委員会（東海修委）の活動
- 3 近畿中学校長会修学旅行専門委員会（近修委）の活動
- 4 あおぞら号近畿地区運営協議会の活動

イ. 修学旅行訪問地の開発活動

●「三地区修学旅行連絡会」等の活動を通して、修学旅行先の開発や情報提供の場の創出し・提供を図った

- 1 2022（令和4）年度三地区代表者連絡会議を開催
- 2 2023（令和5）年度修学旅行費国庫補助金の増額陳情を実施

C. 管理業務（財団運営）

ア. 公益財団法人としての社会的使命を果たし、より効率的な組織運営の確立を目指した

- 1 効率的な予算の執行を図り公益事業比率 50%超を維持した
- 2 事業費及び管理費の見直しとコスト意識をより徹底した

イ. 協会支援の賛助会員・受託事業等の拡大を図った

- 1 公的団体を中心に賛助会員の拡大に努めたが、目標に至らず、会員数は前年度から微減となった（新規会員目標 10 件に対し 2 件加入、退会 3 件）
- 2 受託事業は特になし

ウ. 情報発信・提言の発信

- 1 全修協活動への理解拡大をより進めるため、各種情報・提言・提案等をホームページ掲載、冊子掲載及び委員会活動での資料配布等を通して、更に広い分野・方面に対して発信した

エ. 緊縮財政に鑑み、大胆に事業の精選及び経費の削減を行った

以 上